



CSR環境報告書

2019



JFE プラリソース 株式会社

報告対象期間：2018年4月～2019年3月 一部、継続・直近の活動を含みます。

表紙イラストは、当社従業員お子さん 沙映（さえ）ちゃんの作品です。

企 業 理 念

「 J F E プ ラ リ ソ ー ス 株 式 会 社 は、
環 境 と 調 和 し た 社 会 の 構 築 に 貢 献 し ま す 。 」

行 動 規 範









「 挑 戦 。 柔 軟 。 誠 実 。 」

近年、自然災害の件数また深刻度が増しております。

被害を受けられた皆さまに、

謹んでお見舞い申し上げます。

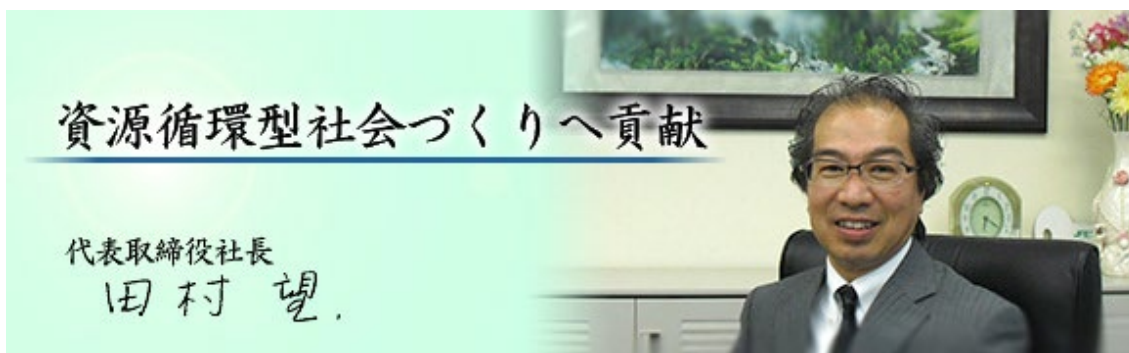
目次

	ご挨拶	．．．．． 1
	会社概要	．．．．． 2
	品質環境マネジメント	
	品質環境マネジメントシステム	．．．．． 3
	環境への取り組み	．．．．． 7
	ソーシャルコミュニケーション	
	お客様・お取引様とともに	．．．．． 11
	地域社会のみな様とともに	．．．．． 12
	従業員とともに ～真の安全配慮の追求～	．．．．． 13
	従業員とともに ～心身ともに健やかに～	．．．．． 19
	コーポレートガバナンス	．．．．． 21
	事業紹介	．．．．． 25
	J F E プラリソースの C S R 重要課題	．．．．． 31
	JIS Q 9091:2016 適合宣言書	．．．．． 37

C S R ・ 環境報告書 2019 電子版は、以下のサイトでご覧いただけます。

- ・ J F E プラリソース株式会社 <http://www.jfe-plr.co.jp/>
- ・ C S R 図書館. net <http://csr-toshokan.net/>
- ・ 福山市次世代エネルギーパーク 施設紹介 <http://fukuyama-energypark.com/guide/>

ごあいさつ



JFE プラリソース株式会社は 2009 年 7 月、JFE 環境株式会社の『容器包装プラスチックリサイクル事業』を会社分割して承継しました。以来、高炉やコークス炉へのプラスチック利用及び材料リサイクルを含めたプラスチックリサイクル事業を通して、資源循環型社会づくりに努めております。

NF ボード®を利用した材料リサイクルにより『廃プラスチックリサイクル推進とCO₂削減』、更に使用後再リサイクルすることにより『化石燃料削減』等を実現しています。環境に優しい企業として、市民の皆様へのリサイクルの『見える化』に注力し、各種リサイクルを推進しております。

また、環境保全は本事業の根幹であり、事業活動に伴う環境負荷をできるだけ少なくするために、全員参加型の環境マネジメント活動を継続展開し、トップレベルの環境配慮型企業を目指します。

現場パワーアップを通して働きがいのある会社として、社員一同一致団結して『創意・挑戦・創造』する会社づくりに向け頑張っていきたいと考えております。

弊社に対し、より一層のご支援とご愛顧を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

代表取締役社長

田村 望

会社概要

会社名 J F E プラリソース株式会社
代表者 代表取締役社長 田村 望 (2019年4月現在)
役員 取締役 鈴木 克紀 武井 信広 高岡 隆司 朝比奈 健
監査役 岡田 宜之

設立年月日 2005年11月
2009年3月登記(定款・社名変更)
資本金 90百万円
売上高 45億円(2018年度)
従業員数 約80名
住所 本社・京浜事業部 〒210-0866 神奈川県川崎市川崎区水江町5番地1
TEL 044-299-5193 FAX 044-299-5328
福山事業部 〒721-0956 広島県福山市箕沖町113番地
TEL 084-981-3160 FAX 084-981-3170
URL <http://www.jfe-plr.co.jp/>

事業内容 一般廃棄物の再資源化およびリサイクル事業
上記事業に関する技術・装置および再生プラスチック商品の販売
沿革 2000年4月 水江原料化工場稼働(処理能力 242t/日)
福山原料化工場稼働(処理能力 254t/日)
2002年9月 N F ボード製造工場稼働
2009年7月 J F E 環境株式会社から容器包装プラスチックの
リサイクル事業を承継
J F E スチール株式会社が全株式取得



京浜事業部
水江原料化工場



京浜事業部
N F ボード製造工場



福山事業部
福山原料化工場

品質環境マネジメント

当社の行う容器包装プラスチックリサイクル事業自体が環境活動であり、事業活動に伴う環境負荷を低減することは当社の責務です。同時に、ステークホルダーの満足度を重視し、品質向上への取り組みを継続することを宣言しています。

品質環境マネジメントシステム

品質（ISO 9001）および環境（ISO 14001）マネジメントシステムに則り、全社で実効ある活動を継続しています。

品質環境方針

<基本理念>

JFE プラリソース株式会社は、プラスチック・リサイクル事業を通して、環境負荷の低減を実現し循環型社会の形成に貢献します。

顧客要求事項及び適用される法令・規制要求事項を明確にし、理解し、一貫してそれを満たし、製品及びサービスの適合並びに顧客満足度を向上させる能力に影響を与え得るリスク及び機会を決定し、顧客満足向上の重視を維持した事業活動を行ないます。

品質マネジメントシステムならびに環境マネジメントシステムにのっとり、すべての従業員は、一丸となって品質環境マネジメントに取り組みます。

<基本方針>

- (1) 顧客満足度の向上、環境負荷の低減を両軸とした事業活動を行い、事業の発展とともに社会コストの低減をリサイクルにより果たすという目的のため、品質環境マネジメントシステムにのっとり、品質環境マニュアルを定め、遵守し事業を行います。
- (2) 品質環境マネジメントシステムは、当社のすべての組織、すべての活動、製品及びサービスに適用します。
- (3) コンビナート、エコタウン、次世代エネルギー・パークの構成メンバーとして環境汚染を予防し、事業活動が与える環境負荷の低減、事業により成される環境負荷の低減を維持・向上・継続します。
- (4) 関連する法令、その他の要求事項を遵守します。
- (5) 品質マネジメントシステムの継続的改善、環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的改善を推進します。

2018年4月1日

代表取締役社長 田村 望

認証取得

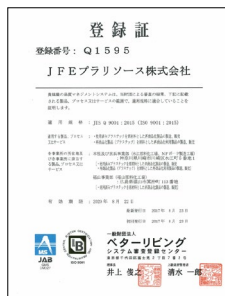
品質マネジメントシステム (QMS) ISO 9001:2015と環境マネジメントシステム (EMS) ISO 14001:2015の第三者認証を取得しています。材料リサイクルにおいては、プラスチック再生材料に係る ISO 9001の追加指針である JIS Q 9091:2016の第三者認証を取得しています。

【 ISO 9001 ISO 14001 適用される製品、プロセス又はサービス】

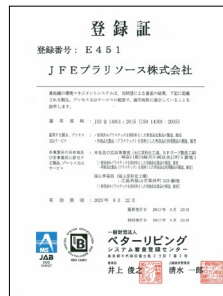
使用済みプラスチックを材料とした再商品化製品の製造、販売

再商品化製品を原料とした再商品化利用製品の製造、販売

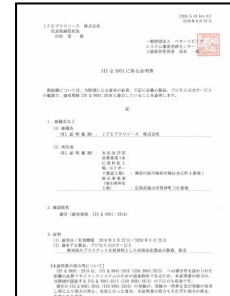
ISO 9001



ISO 14001



JIS Q 9091



品質通知・環境通知

品質環境マネジメントシステムの有効性を保つには、職場においてPDCAサイクルが遅滞なく確実に行われなければなりません。当社では、環境月間である6月と品質月間である11月に社長メッセージとしてそれぞれの通知を全社に向けて発信しています。品質活動計画の実行に日々取り組む中、従業員ひとりひとりが改めてその意義や目的について考える機会となっています。

2018年11月1日
JFEプラザース（株）
代表取締役社長 田村 望

品質通知（社長メッセージ）

11月は品質月間です。JFEプラザースは品質環境方針の中に、「顧客満足向上の重視を維持した事業活動の実施」を掲げています。容器包装リサイクル事業を行なう中で、JFEプラザースは協会社と一体となって品質マネジメントシステムの改善を図り、品質トラブルを防止すると共に、顧客の皆様へ安心・信頼して頂ける活動を継続して進めています。

昨年度、世界標準規格であるISO14001（環境ISO）とISO9001（品質ISO）を取得しました。今年からは、品質環境方針に則った品質環境計画を作成し、実行しています。品質月間に当たり以下を重点的に行ない、品質に対する更なるレベルアップを図って下さい。

重点実施する事項

1. 顧客への価値を重視し価値向上をなす生産・販売活動の創出と推進
2. 自職場の品質対応体制・工程・作業の理解、不良品ゼロ、改善実行
3. 品質パトロール、過去の品質事例学習による啓発活動等の実施を通じて、個々人の品質に対する意識向上

以上

2018年6月1日
JFEプラザース（株）
代表取締役社長 田村 望

環境通知（社長メッセージ）

6月は環境月間です。JFEプラザースは社長方針のひとつに「環境保全」を掲げています。容器包装リサイクル事業を行なう中で、JFEプラザースは協会社と一体となって環境保全活動の向上を図り、環境事故を防止すると共に、近隣地域の皆様に安心・信頼して頂ける活動を継続してして頂ける活動を継続して進めています。

昨年度、世界標準規格であるISO14001（環境ISO）とISO9001（品質ISO）を取得しました。今年、品質環境方針に則った品質環境計画を作成し、実行しています。環境月間に当たり、以下を重点的に行なういただき、環境保全活動の意義を再確認してください。

重点実施する事項

1. 法・条例・協定・社内ルールで定められた事項の確認と遵守の推進
2. 自職場の持つ「著しい環境側面」の理解、監視や負荷低減策の実行
3. 環境パトロール、過去の環境事例学習による啓発活動等の実施を通じて、個々人の環境保全への意識向上

以上

品質環境マネジメント 有効性の評価

品質環境マネジメントシステムの有効性は、月一回事業部長会において評価しています。事業部ごとの品質環境計画に対しての進捗や実績及び全社の活動記録などを報告・確認しています。

【品質環境計画書兼実績報告書】

活動内容ごとに目標達成レベルと担当者を設定し月次で計画・実績を管理しています。

重点実施事項	活動内容
1 品質および環境マネジメントシステム（QMS及びEMS）の導入と全従業員による取り組み	1 品質環境マニュアルの教育 2 各工場のQMS及びEMSの教育 3 内部監査受審と是正 4 自主パトロール（環境パト、品質パトなど）
2 環境汚染の予防と環境負荷低減の維持・向上・継続	1 油・廃液流出トラブル防止：油・廃液流出防止訓練実施 2 火災訓練・消火訓練実施・発災リスク管理表の見直し 3 著しい環境側面の監視・軽減
3 関連する法令、その他要求事項の順守	1 環境関連法・条例、その他変更点まとめと関係者への周知 2 環境活動計画表・実施状況確認
4 QMS及びEMSの継続的改善の推進	1 技術標準の適時作成と定期見直し 2 作業標準の適時作成と定期見直し（読み合わせ） 3 作業標準の教育（演練：重要12標準を選択） 4 計測機器点検
5 個別活動目標	1 ISO18263適合：規格コード合格100% 2 クレーム件数、コンプレイン件数 3 ベレット製品歩留及びNFボード合格率 4 電力原単位（kwh/ペールt） 5 都市ガス原単位（m3/ペールt）

【品質環境マネジメント活動記録】

会社を取り巻く外部や内部の課題などについての情報や、コミュニケーション活動について月次記録を作成しています。

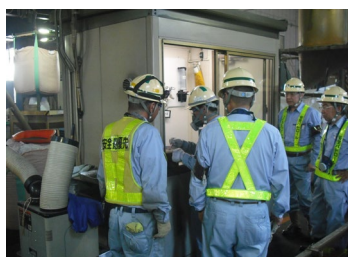
項目	内容
1 外部及び内部の課題、利害関係者と要求事項に関する情報	経営計画策定などの実行報告 容器包装リサイクル協会からの通知等の情報 等
2 環境法令等の主たる改正状況	廃棄物処理法・水質汚濁防止法・地球温暖化対策推進法などの環境法令の改正情報
3 品質・環境目標に対する取り組みの進捗と実績	ISO18263適合出荷率 NFボード製造合格率
4 品質・環境目標に対する活動、行事等	品質環境マニュアル改訂情報 品質環境マネジメントの外部受審及び内部監査報告 等
5 内部コミュニケーション	品質・環境パトロールを含む各種パトロール実施報告 品質環境マネジメント教育実施報告 関連法令改正状況などの社内周知・遵守状況確認報告 等
6 外部コミュニケーション	HP掲載情報報告 工場見学受入実績報告 社外での環境啓発活動報告 等

品質パトロール・環境パトロール

一年を通して実施する様々なパトロールの中に、品質及び環境に特化したパトロールがあります。工場ごとの自主パトロールに加え、品質月間や環境月間には決められた重点課題を中心とし意図した成果（達成すべきこと）に対し、正しいアプローチがなされているかを製造現場において確認しています。改善を要するもののみならず、望ましい取り組みや活動についても評価し、全社での展開及びレベル統一に繋げています。

意図した成果（達成すべきこと）	
【品質マネジメントシステム】	【環境マネジメントシステム】
1. 顧客との契約を守る	1. 環境法令を守る
2. 不良品を流出しない	2. 著しい環境側面 （社会に多大に影響する環境要因） を監視・緩和・向上する
3. PDCAを実行する 各実行、システム自体	3. PDCAを実行する 各実行、システム自体

品質パトロール
（生産管理状況）



品質パトロール
（製品管理状況）



環境パトロール
（雨水排水溝状況）



環境汚染の防止

当社が環境に与える汚染リスクには、火災と工場からの油・廃液流出トラブルが想定されます。環境汚染に繋がる事故を起こさないための取り組みに加え、万一の際に被害を最小限に抑える計画を工場単位で立て、訓練を行っています。



油・廃液漏洩発見
（確認）



敷地外への
流出防止



手順および成果の
有効性評価

環境への取り組み

環境に係わるデータ公開

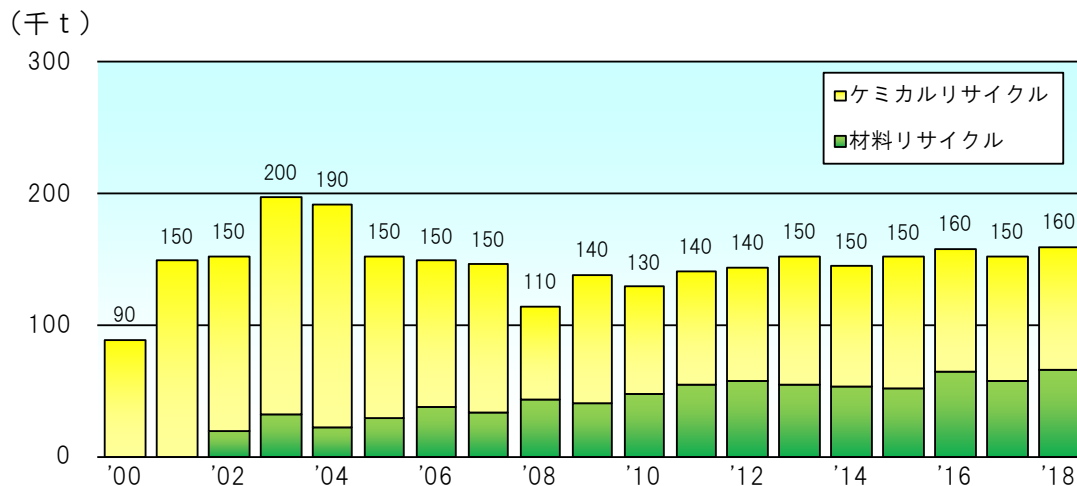
当社HPでは、施設の維持管理記録を公開しています。工場ごとに管理値を設定し取り組み、各月の実績を毎月更新しています。

目的	区分	項目	単位	管理値	至近の測定実績			管理値	至近の測定実績			測定頻度	備考	
					4月	5月	6月		1月	2月	3月			
水江	公害防止	①大気(1系)	ばいじん	g/m ³ N	0.095以下	-	-	0.010	0.028以下	-	-	0.011	3ヶ月毎(6、9、12、3月)	ライン毎
			硫酸化合物	m ³ N/h	1.37以下	-	-	0.10	1.75以下	-	-	0.100		
			窒素化合物	ppm	218以下	-	-	15	218以下	-	-	15		
		①大気(2系)	ばいじん	g/m ³ N	0.095以下	-	-	0.005	0.028以下	-	-	0.010		
			硫酸化合物	m ³ N/h	1.37以下	-	-	0.01	1.75以下	-	-	0.100		
			窒素化合物	ppm	218以下	-	-	5	218以下	-	-	10		
	②側溝滞留水	pH	-	5.8~8.6	-	-	7.3	5.5~9.0	-	-	7.2			
		COD	mg/L	123以下	-	-	37	123以下	-	-	25.0			
		SS	mg/L	152以下	-	-	140	190以下	-	-	150.0			
		③臭気	敷地境界	-	23以下	-	-	11	23以下	-	-	13		
			ペール置場	-	71以下	-	-	31	71以下	-	-	42		
	④振動	敷地境界	dB	57以下	-	-	39	57以下	-	-	44.0			
	⑤騒音	敷地境界	dB	71以下	-	-	63	57以下	-	-	63			
	廃棄物管理	⑥⑦⑧	⑥プラ廃棄物発生量	kg/t	240以下	237	275	274	260以下	243	195	221	工場全体	毎月
			⑦プラ廃棄物熱利用効率	%	79以上	79	77	75	74以上	76	81	80		
			⑧汚泥排出量	kg/t	36以下	0	2	0	56以下	3	3	2		
環境負荷管理	⑨CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /t	260以下	226	219	218	316以下	247	231	229	毎月	工場全体		
化学物質管理	⑩消泡剤	kg/t	2.6以下	0.9	2.2	1.8	2.7以下	1.0	0.9	1.6				
⑪油脂	kg/t	0.07以下	0.11	0.09	0.00	0.11以下	0.11	0.00	0.00					
用役管理	⑫⑬⑭⑮⑯	⑫電力	kWh/t	390以下	367	354	359	390以下	396	366	365	毎月	工場全体	
		⑬Cガス	m ³ /t	21以下	22	22	18	11以下	27.0	28.0	26.0			
		⑭蒸気	kg/t	25以下	0.4	0.8	0.3	0.13以下	1.60	1.40	1.00			
		⑮水資源	m ³ /t	0.12以下	0.10	0.10	0.09	0.24以下	0.08	0.09	0.10			
		⑯車両燃料	軽油	L/t	3.6以下	3.7	3.7	3.6	4.4以下	3.9	3.6			3.5
ガソリン	mL/t		25以下	19.0	29.2	22.3	19以下	10.1	20.8	17.2				

容器包装プラスチックリサイクルによる環境負荷削減

当社の行う容器包装プラスチックリサイクル事業は、CO₂排出削減に大きく寄与しています。以下に、リサイクル手法毎の評価方法による削減効果を算出しています。2018年度のCO₂排出削減量は160千tとなり、これは一般家庭の年間排出量のおよそ4万6千世帯分に相当します。

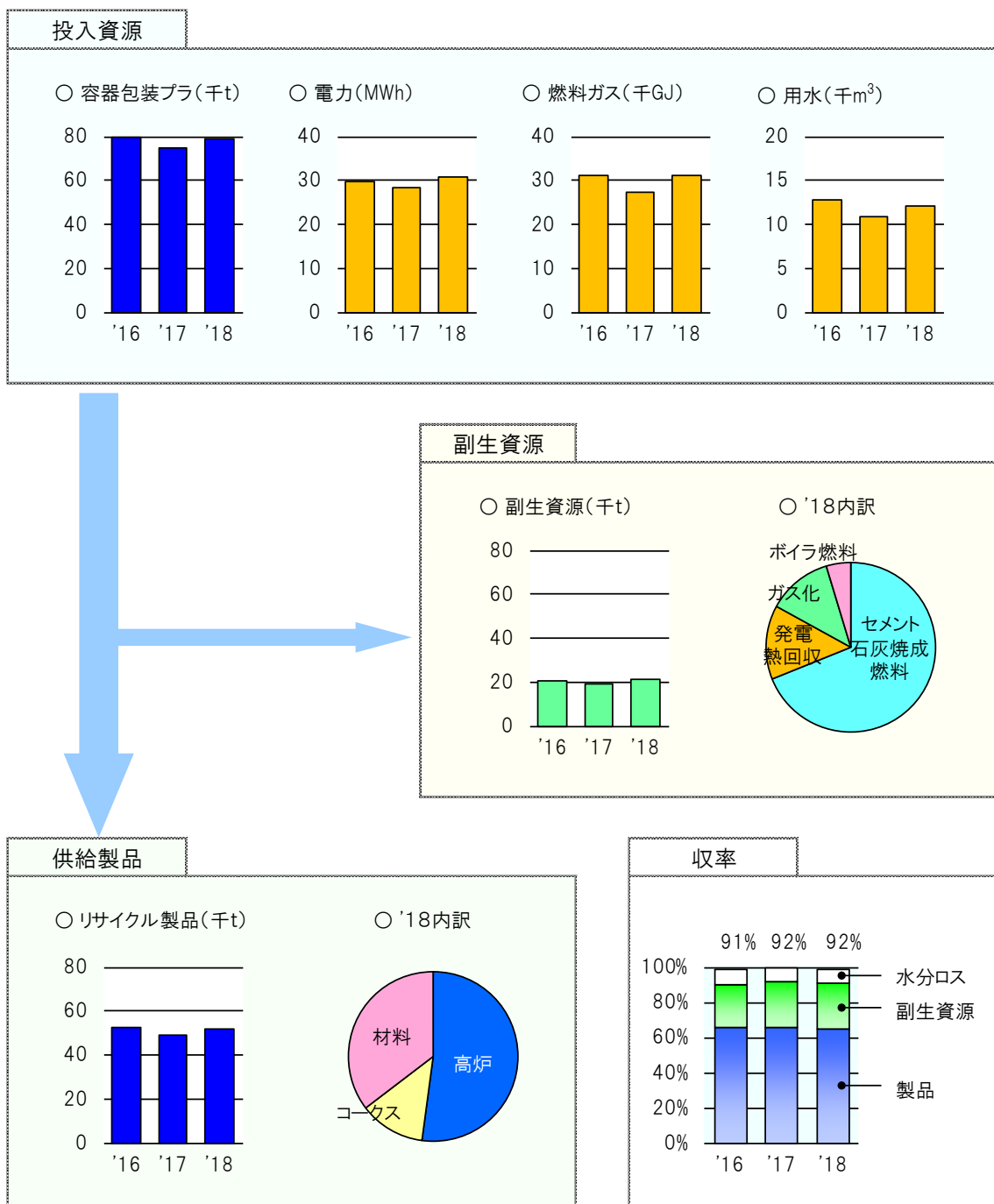
➤ 容器包装プラスチックリサイクルによるCO₂排出削減量



容器包装プラスチックリサイクルのマテリアルフロー

一般家庭から排出された容器包装プラスチックを原料として、「高炉還元剤」、「コークス炉化学原料」、「材料リサイクル」のリサイクル製品を製造しています。

リサイクル製品の収率は約 66%です。約 27%の副生資源は、セメント・石灰焼成燃料等に利用される他、ガス化リサイクルもされています。両者を合わせた総合収率は90%を超え、水分ロス以外のほぼ全量が有効利用されています。容器包装プラスチックリサイクルは、優れたリサイクル手法であると言えます。



私たちのグリーンコミュニケーション活動

私たちは、得意分野である環境・グリーン・エコロジーを通じて、社内はもちろんのこと近隣のみな様を中心としたステークホルダーとのコミュニケーション活動に日々取り組んでいます。未来を担う子ども達によりよい地球環境をバトンタッチできるよう、さまざまな方との関わりを大切に活動しています。

自治体行事などを通じたコミュニケーション

自治体行事は、市民のみな様と幅広く繋がることのできる窓口です。

当社は積極的に参画しています。

▶福山市 ばらオーナー制度への参加

ばらの町ふくやまを代表する公園のひとつである緑町公園に、当社のばらが咲いています。



▶福山市 エコでえ〜ことHAPPY! キャンペーンⅡ

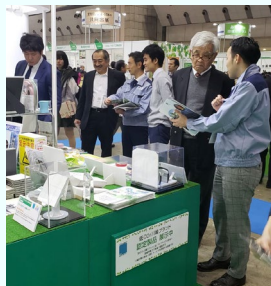
(2018.06~2019.01)

市が推進する環境にやさしいライフスタイルの実践支援活動。当社も毎年参加・協賛し応援しています！



▶エコプロダクツ展2018 (2018.12)

テーマ「SDGs時代の環境と社会、そして未来へ」



容器包装リサイクルへの取り組みや当社製品であるNFボードなどをご紹介しました。海外からのお客様も多数ご来訪頂きました。

▶川崎市 川崎国際環境技術展2019 (2019.02)

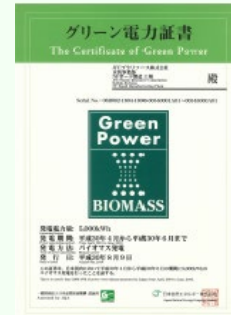
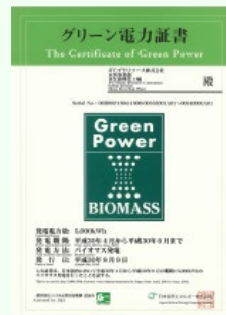
テーマ「未来を創る川崎イノベーション展」

来場者数は約 16 千人。当社ブースにもたくさんの“川崎っ子”たちが訪れてくれました。中でもスケートボード場や豚さん付きの豚舎などの模型を用いた紹介コーナーは大人気でした！



自然エネルギーとの関わり

当社では、環境にやさしい再生可能エネルギーへの取り組みとして太陽光発電やグリーン電力購入を行っています。福山事業部場内に設置の 12kW 太陽光発電設備は、2013 年の稼働開始から一般家庭 20 世帯分の消費電力相当を発電しています。グリーン電力は、“バイオマス発電”による電力を全社 3 工場で購入し、国内各地にある発電設備の維持・拡大を支援しています。



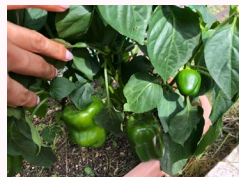
花壇を囲んでのコミュニケーション ～グリーン推進隊～



東西のグリーン推進隊によるコミュニケーション活動はますます拡大しています。花壇がにぎやかな春・夏に限らず、冬場には球根を育てるなど、できることがたくさんあります。楽しみにして下さるみなさんに笑顔をお届けしています。



子ども達も
お絵かきで参加！



ソーシャルコミュニケーション

お客様・お取引様とともに

品質管理・CS（お客様満足）向上

当社は2017年8月、ISO 9001:2015（品質マネジメントシステム）の第三者認証を取得し、顧客満足の向上を中心に据えた品質管理を行っています。また、ISO 18263（包装由来PP及びPE樹脂に関する規格）に基づく管理体制を構築し、規格コードに適合（合格）したもののみを製品として出荷及びNFボード[®]原料とする仕組みを実践しています。お客様の要望に確実に応えすべく、全社一丸となり継続的改善を推進しています。

社会とのコミュニケーション

JFEプラリソースWebサイト

会社概要をはじめとし、ISOマネジメントへの取り組みなど当社の環境活動を公開しています。加えて従業員による“グリーン推進隊”活動報告コーナーを設け、ステークホルダーのみな様に当社をより近くに感じて頂けるホームページづくりを推し進めています。



CSR環境報告書

CSR環境報告書は、「どなたにもわかりやすい紙面づくり」をテーマとし、一年のトピックスを中心にみな様にお届けしています。



環境イベントへの積極的参加

当社は、資源循環型社会のさらなる拡充の一助となるべく、行政や業界団体などが主催するさまざまな環境イベントに積極的に参加し情報発信しています。



於：エコプロダクツ 2019

地域社会のみな様とともに

工場見学会の開催

当社は年間を通して、ステークホルダーのみな様に向け見学会を開催しています。DVDでの事業紹介、製品を展示するお客様ルーム・工場ラインの見学など目で見て触れてリサイクルを体感して頂ける工夫をしています。夏休みには、地域の環境学習の一環として子ども達にも多数ご参加いただいております。

2018年度見学実績

	件数	人数
一般	6	184
企業・団体	10	87
中央官庁	3	6
市町村	3	11
海外	1	13
計	23	301



グリーン推進隊活動（報告）を通じて

当社は、京浜事業部・福山事業部のそれぞれにおいてグリーン推進隊活動を行っています。活動内容は、HP上の“グリーン推進隊からのお知らせ”コーナーにて随時報告しています。社内でのグリーンコミュニケーションを発信する窓口は、地域社会のみな様と繋がることのできる重要ツールです。



従業員とともに ～真の安全配慮の追求～

安全衛生活動は継続し続ける

安全には、時代の流れや企業の発展とともに変わっていくものと変わらないものの二種類があります。安全衛生は生きものです。危険状態や衛生に欠けることが、想像できたり気付いた瞬間から新たな安全活動が加わります。一刻も早くより安全・衛生的な環境に変化させなければなりません。一方で、改善された安全・衛生状況を維持するという活動は変わることなく継続していかなければならないものです。当社にとって、安全衛生活動とは「変わることも変わらないことも継続し続ける」活動です。

2019年 安全衛生防災活動方針

1. 基本理念

『安全は全てに優先する』

2. 活動目標

『各職場 完全無災害 の達成』

3. スローガン

『異常時は必ず止めてKY実施』

『先手対策で守ろう仲間の安全』

4. 活動方針

- (1) 先手対策実施とワースト5活動を推進して
『安全で快適な職場を作る』
- (2) 明るい挨拶・指差呼称・5S徹底を通して
『明るくメリハリのあるきれいな職場作り』
- (3) 防災教育&訓練実施による防災基盤の強化
『全員が消火設備を使用した訓練実施』
- (4) 職場の改善・心と体の健康づくりを推進して
『健康で働きがいのある職場作り』

JFEプラリソース株式会社

ハードとソフトの正しい組み合わせ

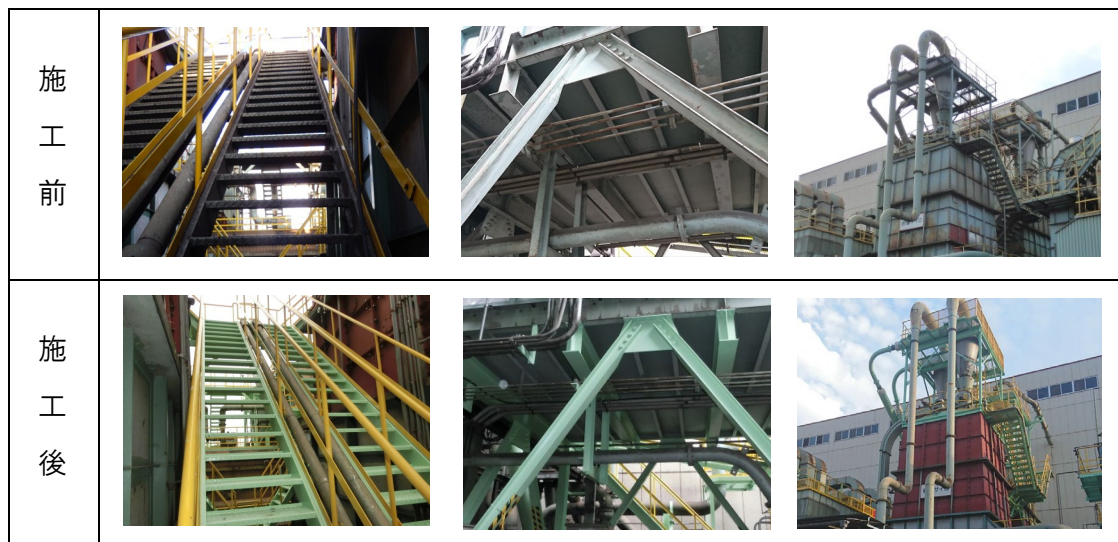
「ご安全に!」「強い心（意思）でルールを守ろう」との合言葉は、私達にとって習慣であり周知されて久しいものです。立場を問わずひとりひとりの毎日の意識や行動の積み重ねが、自分や仲間の安全を守っていると自負しています。加えて、企業には作業環境の安全化の追求という責務があります。そのひとつに、従業員の安全確保のためハードの充実があります。人間には感情があるため「正常性バイアス」という心理作用が起こります。これは、正常であると認識する範囲を拡大してしまう人間の心の働きです。合わせて、ヒューマンエラーといった人間が行為をなす以上避けて通ることはできない過誤や失敗があります。こういった安全上での人間の特性（弱点）を踏まえ、個人の力量や感覚に頼らないハード（設備や作業環境）とソフト（個人の意思や安全感）で、当社の安全をいっそう磐石なものとするべく企業努力を継続しています。

2018年度の重点安全対策

時代の流れとともにリスクの種類や内容も刻々と変化しています。その時々で、最優先課題に対し有効な対策をスピーディーかつ適切に実行していくことが従業員の安全・健康を守ることに繋がります。2018年度は、重点安全対策を以下の2点とし改善を図りました。

屋外構造物塗装

屋外設備劣化の大きな要因に腐食があります。腐食により引き起こされる設備トラブルはその復旧に多大な時間がかかるリスクを抱えています。また腐食した設備での作業や隣接場所での作業においては、踏み抜きや瓦解・倒壊などの事故リスクが非常に高まります。設備体力の強化は、労働災害未然防止にも大きく寄与しています。



初期消火用装置設置

従業員のみなならず近隣のみな様の生命や財産に直結し、環境面においても重大な影響を与える火災のリスクを可能な限り低減するため、各設備への火災センサー及び初期消火用散水装置を全社3工場57箇所に増設しました。火災センサーや散水ホースといったハードを充実させることで、その使い方や「ここは火災リスク箇所」といった危険認知度を個人レベルで即座に向上することが可能となりソフト面と相乗効果を生んでいます。

<p>振動節火災センサー</p>	<p>供給コンベア火災センサー</p>
	
<p>温度表示盤</p>	<p>コンベア補助シュート散水ホース</p>
	
<p>破砕機監視カメラ・散水ホース</p>	<p>ホッパー内天井散水ノズル</p>
	

年間を通じた安全衛生防災活動

基本理念に置く「安全は全てに優先する」のもと、安全であることを実現・維持し向上していくために、当社は方法としてマネジメントシステムにより安全管理をP（管理を計画）D（組織）CA（評価・統制）の循環過程で実行しています。PDCAの好循環には、完全無災害の達成を目的としひとりひとりが創意・挑戦・努力を積み重ねることが必須です。そして継続していくことこそが、安全文化の醸成となり安全に強い組織の実現に繋がります。私たちは全社一丸となりこれまで培ってきた安全文化の更なる発展を目指し、日々活動しています。当社の行なう具体的なPDCAサイクル活動を以下にご紹介します。

ワースト5活動

危険要素を排除し・作業負荷を軽減し、働きやすい職場をつくることを目的とした「ワースト5活動」は、安全に懸念がある作業・危険を伴う作業・負荷が大きい作業を職場単位でピックアップし改善、評価していく活動です。リスクレベルを頻度・可能性・重篤度などの項目別に評価し、優先順位づけし改善に繋がっています。

小トラブル&不安全状態の発見・是正活動

大トラブルや労働災害の未然防止には、小さなトラブルから潜在リスクを見つけ出すことが有効です。見過ごされている不安全状態の発見には、危険予知能力が必要とされます。両者の視点で活動を継続することが、安全態度向上に繋がり高い安全態度が更なる潜在リスク発見を確実にします。

SK-1（職場活性化No.1）活動

企業にとって財産であり、企業発展の要となる「人」や「職場」の育成を目的とした活動のひとつに職場活性化No.1活動があります。問題解決や職場の目標達成に向けてグループ内で発案や意見を積極的に発信・受信ができる風土づくりを目的としています。年度末に行なわれる発表大会は会社発足以来第10回目の発表大会を迎えました。

所属	テーマ名
福山設備チーム	真空ポンプへのタール流入防止に挑戦
NFボード製造工場	NFボード品質向上～寸法制度改革～
水江原料化工場	固形破砕物BL清掃頻度の削減～PART2～
水江原料化工場	搬送BCプラ飛散防止
福山原料化工場	PVC沈殿物残渣コスト削減に挑戦
営業室	NFボードと競合資材との優位性の明確化
京浜設備チーム	押出機真空ポンプ故障低減

2018年度 主な安全衛生防災活動

4月 産業医講話「禁煙」について
安全・環境・防災パトロール実施
防火パトロール実施
5Sパトロール実施
ストレスチェック実施
危険体感講習会



5月 産業医講話「熱中症」について
安全・環境・防災パトロール実施
若年層パトロール実施
消火訓練実施
川崎市「労働災害防止標語」に参加
総数105点を応募



6月 「環境月間」、「危険物安全週間」、「全国安全週間準備期間」
産業医講話「ブルーライト」について
安全・環境・防災パトロール実施
環境・危険物パトロール実施
環境防災訓練実施
安全標語社内コンクール最優秀作品のぼり作成
素早く摘み取れ「危険の芽」「あとでやろう」は事故の元

7月 「全国安全週間」 社長安全講話実施
産業医講話「歯の健康」について
安全・環境・防災パトロール実施
若年層パトロール実施
熱中症ゼロ活動



8月 「電気使用安全月間」
産業医講話「呼吸用保護具」について
安全・環境・防災パトロール実施
職場自主（移動式電気器具）パトロール実施
消火訓練・環境防災訓練実施
電気使用安全教育実施
ハラスメント研修会実施「ハラスメントのない健全な職場環境づくり」



9月 「防災月間」、「全国労働衛生週間準備期間」
産業医講話「転倒予防～転ばぬ先の体づくり～」について
安全・環境・防災パトロール実施
防災備蓄品パトロール実施
ストレスチェック実施
秋季みんなでウォーキング活動実施



10月 「全国労働衛生週間」 社長労働衛生講話実施
産業医講話「腹部外傷～意外と怖いお腹のケガ～」について
安全・環境・防災パトロール実施
衛生パトロール実施
消火訓練実施
消防組合主催消防競技会出場



11月 「秋の全国火災予防運動」
産業医講話「酒～飲みすぎに注意～」について
安全・環境・防災パトロール実施
防火パトロール実施
年末年始特別パトロール実施
消火訓練実施
安全帯フルハーネス義務化に向けた講習会実施



12月 「年末年始火災特別警戒」
産業医講話「産業医巡視まとめ2017-2018その1」について
安全・環境・防災パトロール実施
「年末年始無災害運動」として危険物・可燃物保管箇所パトロール実施
床面安全対策コンテスト実施
2018年安全衛生防災活動の評価と反省

1月 「年末年始火災特別警戒」
産業医講話「産業医巡視まとめ2017-2018その2」について
安全・環境・防災パトロール実施
安全祈願実施
2019年安全衛生防災活動開始



2月 産業医講話「高血圧」について
安全・環境・防災パトロール実施
3月の「春の全国火災予防運動」に向けた実施要領作成
ハラスメント防止教育実施
全社SK1（職場活性化ナンバーワン）活動発表会開催



3月 「春の全国火災予防運動」
産業医講話「2018年度定期健康診断結果」について
安全・環境・防災パトロール実施
自主防火パトロール実施
消火訓練実施
危険体感講習会
全社安全大会開催



従業員とともに ～心身ともに健やかに～

メンタルヘルスケアの推進

こころの健康状態は身体の健康と等しく守られなければならないものです。単に病気ではないということだけでなく、健やかでいきいきと生活を送ることができることがこころの衛生状態が守られている状態と言えます。当社は労働環境を健全にし、予防医学の観点からこころの病の未然防止・早期発見ができる体制づくりで従業員をサポートしています。一次予防においては、従業員本人によるセルフケア支援としてストレスチェックや産業医講話及び健康体操を実施し、職場管理者へのラインケア教育を定期的に行なっています。加えて産業医と連携し随時相談窓口を整えることで二次予防に繋がっています。



産業医講話



職場管理者へのラインケア教育

ハラスメントのない職場のために

個人の尊厳や名誉・人格を侵害するハラスメントのない職場づくりは、企業倫理であると同時に働くすべての者のメンタルヘルスを守るための大切な第一歩です。ハラスメントの発生を防ぐには、「認識」と「予防」が最も重要です。当社で働く全ての人々が安心して信頼関係の中で会社生活を送ることができるよう取り組みを進めています。社長による宣言、無記名アンケートや講師によるハラスメント研修会（事例検討やディスカッション・〇×テストなど）、ホットラインを含めた通報制度を設けています。ともに働く仲間を思いやる行動は相手にケガをさせない、皆が元気で帰宅するといった安全行動・文化と同じです。

JFEプラリソース株式会社は、誰もが持つ幸福追求権をおびやかすあらゆるハラスメントを決して許しません。いかなる理由であってもハラスメントをしない・させない職場作りに継続して取り組みます。



ハラスメント研修会

ワークライフバランスへの取り組み ～多様で柔軟な働き方～

ワークライフバランス（仕事と生活の調和）やダイバーシティー（多様な人材の積極的活用）などをキーワードとした従業員の働き方についての取り組みは、企業においてその重要性はますます高くなっています。国の推し進める「働き方改革」とは、働く方々が個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を自分で選択できるようにするための改革です。

当社においても、すべての者が他者を尊重し受容することで個人が有する能力を最大限に発揮でき、やりがいや潤いを持って働くことのできる職場づくりを積極的に推進しています。

年5日の年次有給休暇の確実な取得

2019年4月より、年10日以上の子年次有給休暇が付与される労働者に対して、年次有給休暇のうち年5日については使用者が時季を指定して取得させることが義務化されました。当社は、従業員の取得を確実とするために、従来年2日であった計画年次有給休暇を2019年4月より5日とすることにより対応しています。

2日／月以上の定時退社奨励

個人ごとの2日／月以上の定時退社予定日の設定・実行を2017年10月より取り組んでいます。取り組み開始時と比較し、至近1年間では実行率は100%となっています。各人が「自分で決めて、自分で守る」スタイルの浸透は、各人の働き方改革にも繋がっています。

レクリエーション&コミュニケーション活動 ～潤いのある毎日を～

年1回のバーベキュー大会は、従業員やその家族及び関係会社のみな様との大切なコミュニケーションの場です。春と秋に実施される体力づくりを目的とした「みんなであウォーキング」活動は、それを機に年間を通して心身のリフレッシュに役立っている従業員も多くいます。当社は従業員が潤いを感じられる職場環境づくりを大切にしています。

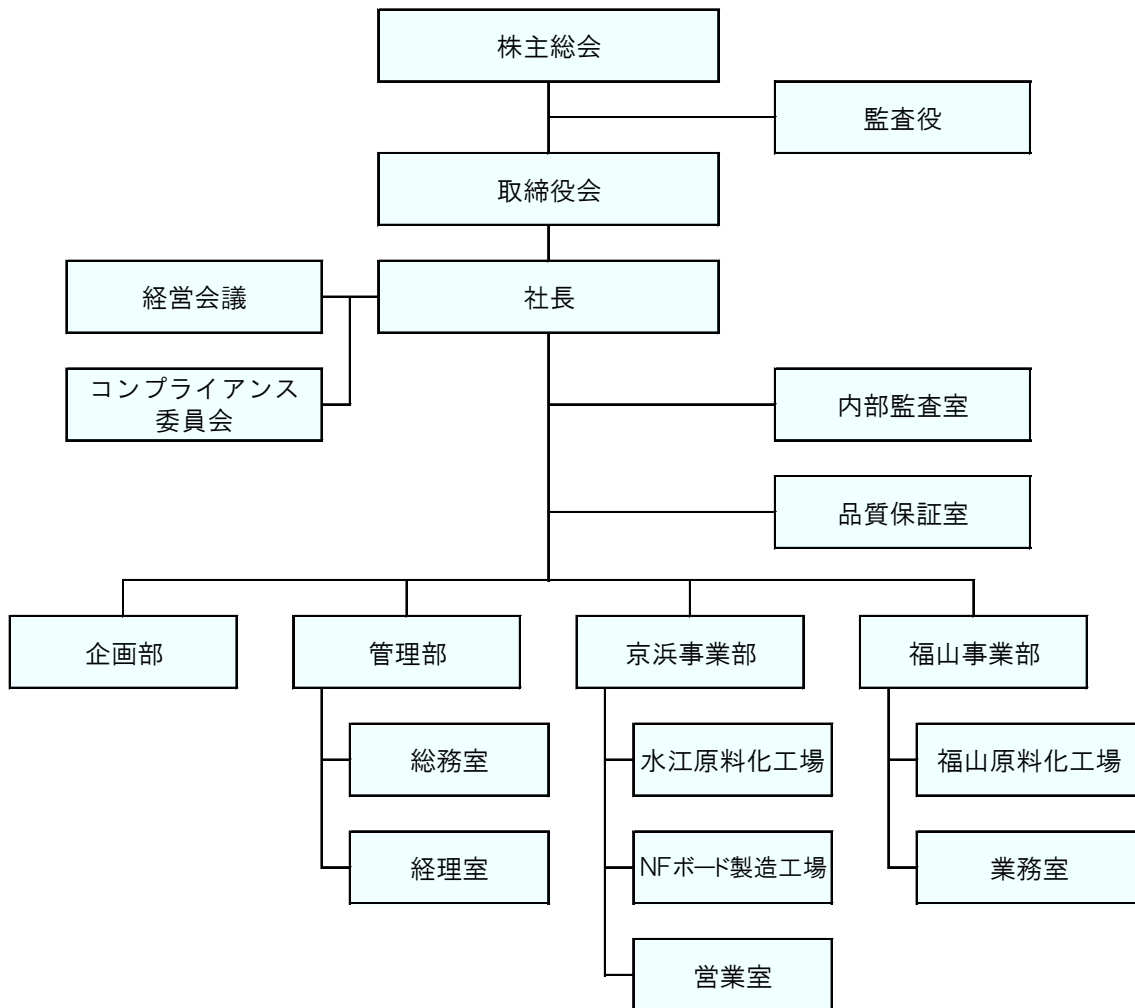


コーポレートガバナンス

JFEプラリソース株式会社は、ステークホルダーのみな様のニーズと期待に応えることを企業経営の最重要課題とし、体制を整備しています。

経営体制

スリムな経営体制を構築し、効率的に事業推進することで、競争力の強化と収益力の拡大を図っています。



内部統制構築の基本方針

当社の企業行動指針や取締役会規則などをはじめとする、業務遂行に関わるすべての規程、規則などは包括的・一体的として当社の内部統制体制を構成するものです。企業活動に関わる法令変更または社会環境の変化に従い、さらには業務執行の効率性の観点においてその目的・趣旨が実現されるよう努めるものとしています。

CSRマネジメント

JFEプラリソースは、長期的な視点に立ち持続可能な社会を構成していく一員として価値ある事業活動を継続することで社会的責任（CSR）を実践します。

JFEプラリソース株式会社 行動指針

JFEプラリソース株式会社の役員および社員は、「企業理念」の実現に向けたあらゆる企業活動の実践において、「行動規範」の精神に則るとともに以下の「行動指針」を遵守する。

経営トップは自ら率先垂範の上、社内への周知徹底と実効ある体制整備を行い、企業倫理の徹底を図る。

本行動指針に反する事態には、経営トップ自らが解決にあたり再発防止に努める。また、社内外への迅速かつ的確な情報公開を行い、権限と責任を明確にした上で厳正な処分を行う。

1. 良質な商品・サービスの提供

優れた技術に基づいた安全で高品質の商品とサービスの提供に努めるとともに、個人情報・顧客情報の保護に十分配慮し、お客様から高い評価と信頼を得る。

2. 社会に開かれた企業

株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを図り、企業情報について、社会への積極的な情報公開に努める。

3. 社会との連携と協調

良き企業市民として、社会との連携と協調を図り、積極的な社会貢献に努める。

4. グローバル化

グローバルな視点を持ち、各種の国際規範はもとよりそれぞれの文化や習慣を尊重し、世界の様々な人々との相互理解に努める。

5. 地球環境との共存

地球環境との共存を図るとともに、快適な暮らしやすい社会の構築に向けて主体的に行動する。

6. 政治や行政との関係

政治や行政との健全かつ正常な関係の維持・構築に努める。

7. 反社会的勢力への対応

市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは、一切の関係を遮断し、違法・不当な要求には応じない。

8. 人権の尊重

社会の人々、従業員を個として尊重し、企業活動において一切の差別を行わない。

9. 働きがいのある職場環境

従業員にとって魅力に富み、安全で働きがいのある職場を提供する。

10. 法令の遵守

法令を遵守し、公正で自由な競争に心がけ、適法な事業活動を行うとともに、健全な商慣習に則り、誠実に行動する。

コンプライアンス（法令遵守）の徹底

経営の最重要課題である「コンプライアンス（法令遵守）」をCSRの基本として位置づけ、社長をリーダーとするコンプライアンス委員会を開催し、以下の審議や情報交換及び、諸施策実行を行っています。

- ・ コンプライアンス基本方針の審議・決定
- ・ コンプライアンス事例案件の紹介と社内での周知徹底
- ・ コンプライアンス課題と対策の検討・実施

企業倫理ホットラインの運用

企業倫理・法令遵守のためすべての従業員が経営トップ（社長）または監査役に直接アクセスできるよう、京浜地区・福山地区それぞれに「企業倫理ホットライン」を設置しています。運用にあたっては、通報・相談者を保護する規程を定めています。

内部監査の充実

内部監査は、企業不正や違法行為の有無を確認することで法令遵守および組織の自浄作用に有効である側面と、企業の目標達成に向けた改革・改善を支援するという二面性があります。当社は、多岐に渡る業務内容について、年間計画に基づき業務プロセス・法令遵守の内部監査を実施しています。

JFE グループで実施	1 決算財務報告プロセスの整備・運用／評価
	2 リスク対策状況
	3 業務プロセス
	4 内部統制体制の見直し、取組状況
	5 全体的な内部統制
	6 内部統制体制の評価結果
JFE プラリソースが 自主的に実施	1 資材、工事の運転・建設適正運用
	2 トラブル対策フォロー
	3 資材契約の牽制
	4 内部監査室によるテーマ監査（監査役と協働）
	5 ISO監査
JFEスチール 各部門が実施	1 環境監査、安全監査
	2 品質監査
	3 監査部監査

業務プロセスチェックの実施

顧客満足度ならびに企業の健全性向上を達成するためには、業務プロセスの最適化および効率化が重要です。日々のさまざまな業務について定期的な見直しを行い、業務改善を継続しています。

リスクマネジメント

企業経営を取り巻くリスクは多様化・複雑化しています。当社は、あらゆるリスクを予防し、緊急事態が起こった際にも事業を継続していけるようリスクマネジメントの強化に取り組んでいます。

全社業務のリスクは、内部監査室が中心となって統括し管理しています。頻発する大規模自然災害・パンデミック・急速に発展する情報社会における情報漏洩など、変化し続ける社会動向に対応するため、情報の収集・分析に注力しています。

各工場では生産業務上の重要リスクを毎年見直し、各年度で重点課題を設定して継続的な改善を進めています。また、工場間の情報交換や情報共有を密に行うことにより、スピード感を持ち全社一体のマネジメントを推進しています。

SDGsへの取り組み

当社は、2018年よりSDGs（持続可能な開発目標）に対応する取り組みを進めています。JFEグループが特定したCSR重要課題を主軸とし、経営・環境・安全・人権・ガバナンスにおいてJFEプラリソースの主な具体的実行テーマを設定しています。

17のSDGs目標と169の対象とするターゲットを照らし合わせ、対象とするターゲットを定め事業活動を行っています。

詳細及び本報告書対応ページ早見表は、巻尾に掲載しています。



事業紹介

容器包装プラスチックのリサイクル

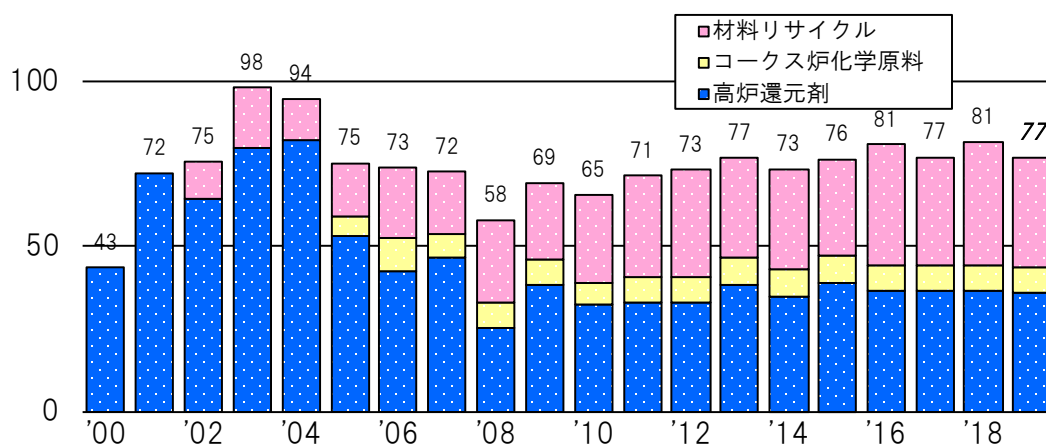
リサイクルの手法

当社は、「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）」に基づき事業を行っています。一般家庭から排出される容器包装プラスチックのリサイクルには、5つの手法が定められており、当社は2000年4月の法施行と同時にリサイクルを開始し、現在「高炉還元剤」、「コークス炉化学原料」、「材料リサイクル」の3手法を行っています。

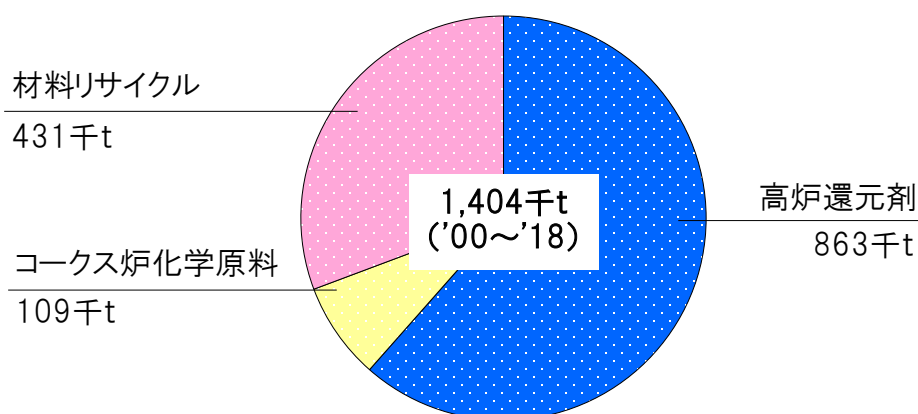
容器包装プラスチックリサイクル量の推移

2000年度の事業開始以降2018年度まで、トータル1,404千tの容器包装プラスチックをリサイクルしてきました。これは、全国総量の約13%を占めています。

▶ 年間リサイクル量



▶ リサイクル量の内訳



環境と調和した製品・サービス

使用済プラスチックリサイクルー貫システムを通じて

当社は、一般家庭から排出された容器包装プラスチックを再資源化し、NFボード®を始めとする再生プラスチック製品を社会にリサイクルすることで、循環型社会の形成を推進しています。

1) 一般家庭から分別排出

貴重な都市資源として、一般家庭から分別して排出されます。

2) 市町村の分別収集・選別・ベール化

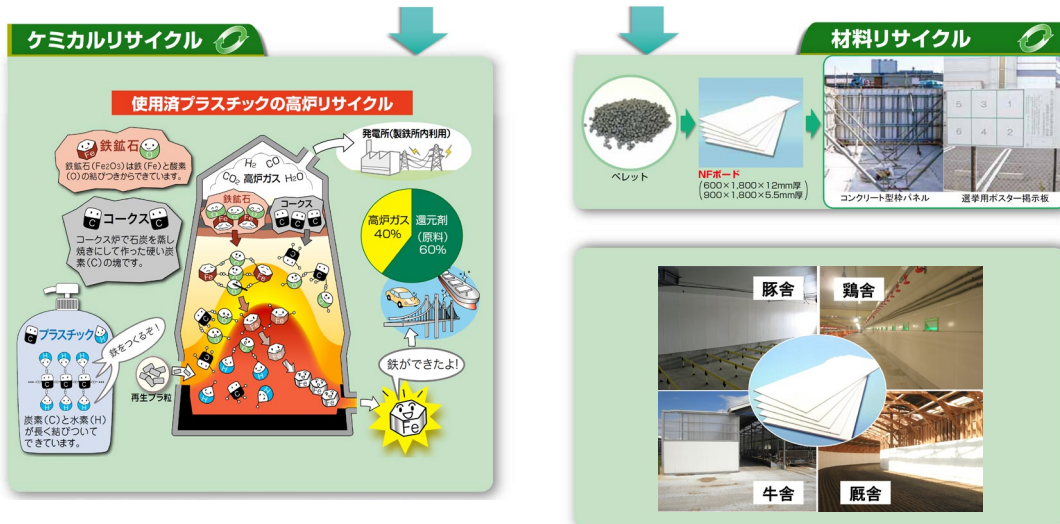
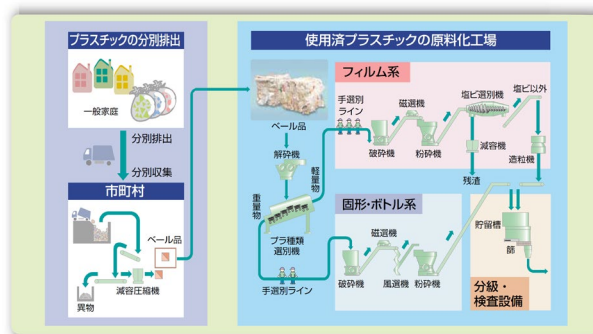
市町村が分別収集し、異物を取り除く選別と圧縮ベール化を行います。

3) 当社で再資源化

当社でさらに選別/破碎/粉碎/塩ビ選別/洗浄/脱水/乾燥し、造粒/ペレット化して、再生プラスチック原料とします。

4) 社会にリサイクル

NFボード®などの再生プラスチック製品に加工し、社会にリサイクルします。また、製鉄高炉で石炭代替原料として利用し、化石資源の節減に寄与します。



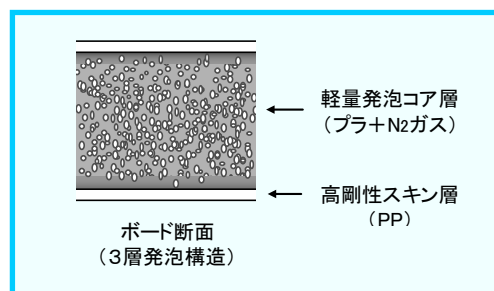
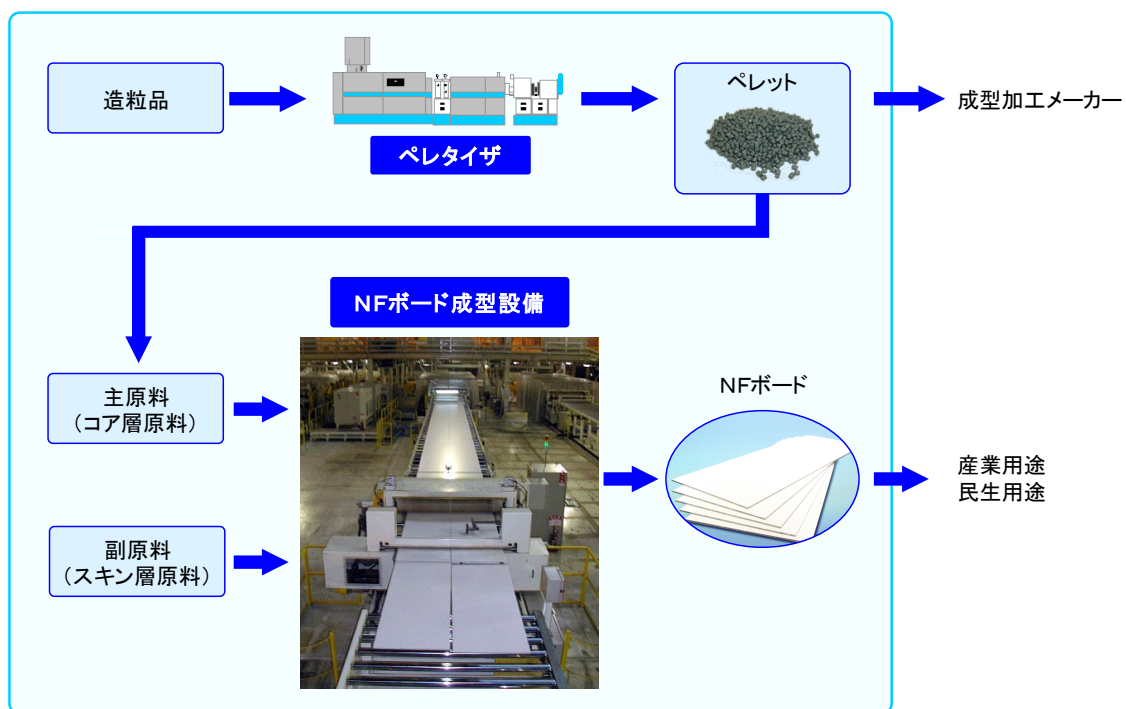
製品を通じて ～ 製品製造から回収まで ～

当社では、容器包装プラスチックの再資源化製品として、再生プラスチックボード「NFボード®」を独自開発しました。

容器包装プラスチックを再生使用した軽量発泡コア層と高剛性スキン層からなる3層構造で、優れた耐久性（耐衝撃性、耐磨耗性、耐水性、耐薬品性）・清潔性・保温性・防音性・自由な加工性（切断、穴開け、釘打ちが可能）・バージン材と同等の扱いやすさを有しています。使用用途は幅広く、農業・畜産業・水産業といった生活に欠くことのできない産業でのご活用を始め、市街では緑化下地材やスケートボード床材など、様々なシーンでご利用いただいております。

また使用済ボードは回収しカスケードリサイクルするシステムも構築し、徹底した資源循環を進めています。

今後も用途開発を継続して行い、幅広いニーズにお応えするとともに新たなご提案にも注力してまいります。



N F ボード®利用用途の拡大

N F ボード®は畜舎や野菜の水耕栽培工場などの業務用としてのご利用に加え、近年では常設やイベントでのスケートボード場として関東圏を中心に全国でのご活用が広がってきました。みな様の生活のさまざまなシーンにて、N F ボード®の特性（耐菌繁殖性・耐衝撃性など）を生かしたご利用用途は拡大中です。お客様の毎日により身近により便利にお役立ちできるよう全国のD I Yにおいても品揃えを強化しております。

▶ N F ボード®ご利用事例



モトクロスバイク場 ジャンプ台



お米保管庫 内壁



スキージャンプ台 下地材



水耕栽培工場 LED反射板



スケートボード場



道路標識 埋設型枠



豚舎 内壁



壁面緑化下地材

NFボード®の認定・認証

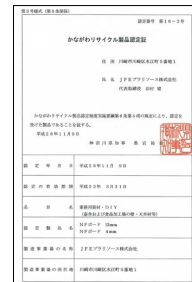
当社独自開発のNFボード®は、様々な認定・認証を受けています。
環境にやさしい製品であることに加え、建築資材やDIY資材として用途の幅広さが評価されています。

1) 海外商標登録

商標 : JFENF-PLA BOARD
 所掌 : 中華人民共和国 国家工商行政管理総局 商標局
 登録番号 : 18100179~18100181
 認定日 : 2016年9月16日
 所掌 : 中華民国 經濟部 智慧財産局
 登録番号 : 01793824
 認定日 : 2016年11月28日

2) かながわりサイクル製品認定

所掌 : 神奈川県
 品目 : 業務用資材・DIY
 認定製品 : NFボード
 認定日 : 2016年11月9日



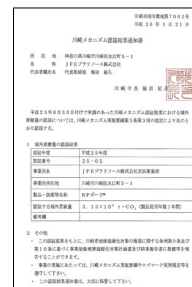
3) 商標登録

所掌 : 特許庁
 商標 : NFエコラベル
 登録番号 : 第5812796号
 登録日 : 2015年12月11日



4) 川崎メカニズム認証

所掌 : 川崎市
 製品名称 : NFボード
 認証番号 : 25-02
 認証日 : 2014年1月21日



5) 建設技術審査証明

所掌 : 一般財団法人日本建築センター
 技術名称 : 再生型枠「NFボード」
 認定番号 : BCJ-審査証明-210
 認定期間 : 2013年9月26日~2023年9月25日



6) 商標登録

所掌 : 特許庁
 商標 : NFボード
 登録番号 : 第5481636号
 登録日 : 2012年3月30日



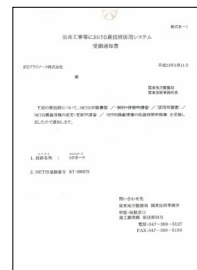
7) エコマーク

所掌 : 公益財団法人日本環境協会
 商品名 : NFボード
 認定番号 : 10 118 027
 認定期間 : 2010年11月25日~2020年8月31日
 類型名 : No.118「プラスチック製品 Ver.2.4」



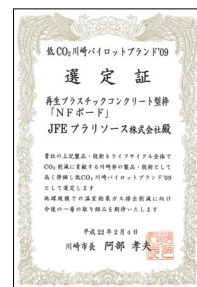
8) NETIS (新技術情報提供システム)

所掌 : 国土交通省
 名称 : NFボード
 登録番号 : KT-090078
 登録日 : 2010年3月26日



9) 低CO2川崎パイロットブランド '09

所掌 : 川崎市
 認定製品 : 再生プラスチックコンクリート型枠
 「NFボード」
 認定日 : 2010年2月



10) グリーン購入

所掌 : 環境省
 分類 : コンクリート用型枠
 名称 : NFボード
 施工日 : 2008年3月10日



JFEプラリソースのCSR重要課題

JFEグループのCSR重要課題（マテリアリティ）

JFEグループは、5分野・13項目のCSR重要課題を特定しています。

● 特定したCSR重要課題

特定したJFEグループのCSR重要課題は、以下の5分野・13項目です。
 当社グループは、あらゆる事業活動および社会活動において基本となる人権を尊重しながら、公正かつ透明性の高いコーポレートガバナンスを基盤として、これらのCSR重要課題の取り組みを推進していきます。
 CSR重要課題への取り組みは、「世界最高の技術をもって社会に貢献します。」という企業理念の実践であり、これらを通じてグループの持続的な成長と持続可能な社会の実現への貢献を目指します。

企業理念 常に世界最高の技術をもって社会に貢献します。

課題の分野	内容	CSR重要課題	
事業活動	良質な商品の提供と お客様満足度の向上	● 優れた技術に基づいた商品とサービスの提供	商品安定供給
		● 安全で高品質な商品の安定供給を継続	品質確保
		● お客様の課題の解決	研究開発の推進
			お客様ニーズへの対応
	地球環境保全	● 環境負荷低減	環境配慮商品の開発と提供
		● 循環型社会の実現に貢献	地球温暖化防止
		● グループの技術力を活かし環境保全に貢献する商品を開発	大気環境の保全
			資源循環の推進
	労働安全衛生の確保	● 安全はすべてに優先する	労働災害の防止
		● 社員とその家族のこころとからだの健康の維持と、働きがいのある職場を構築	社員とその家族の健康確保
	多様な人材の 確保と育成	● 全ての人材がその能力を最大限発揮できる環境を整備	ダイバーシティ&インクルージョン
		● 技術・技能の蓄積と伝承	人材育成制度
事業活動の 基本	コンプライアンスの徹底	企業倫理の徹底と法令遵守	

コーポレートガバナンス (公正性・公平性・透明性を確保)

人権の尊重・人権意識

事業活動を通じた「持続可能な開発目標 (SDGs)」への貢献

2015年9月に国連サミットで、持続可能な発展のために世界が共有して取り組む17のゴール「持続可能な開発目標 (SDGs)」が設定されました。グローバル社会の要請に対し、JFEグループは事業活動を通じた貢献を目指します。



関連性の高いSDGs	

JFEグループの持続的な成長と企業価値の向上

課題への取り組みが目指すもの

持続可能な社会の実現に貢献

出典 JFEグループCSR報告書 2017

JFEプラリソースのCSR重要課題

当社は、JFEグループが特定したCSR重要課題を主軸とし、具体的実行テーマを設定しています。17のSDGs目標と、169の対象とするターゲットを照らし合わせ、対象とするターゲットを定め、取り組みを進めています。

JFEグループ 特定したCSR重要課題			当社の主な具体的実行テーマ	
事業活動	良質な商品の提供と お客様満足度の向上	商品安定供給	適正なバリューチェーン 小売り店網整備	
		品質確保	ISO 9001、ISO 18263 に基づく管理体制	
		研究開発の推進	商品開発体制の拡充 研究開発費利益比率2%	
		お客様ニーズへの対応	お客様選択仕様の拡大 エンゲージメント強化	
	地球環境保全	環境配慮商品の開発と提供	再生プラスチック製品の開発と商品化	
		地球温暖化防止	再生プラスチック製品適用市場の拡大	
		大気環境の保全	—	
		資源循環の推進	副産物の製品化開発	
	労働安全衛生 の確保	労働災害の防止	設備・作業の安全化への資本投入 (同一テーマの全工場実行) リスク低減ワースト5活動	
		社員とその家族の健康確保	快適職場の形成 家族参加型レクリエーション	
	多様な人材の 確保と育成	ダイバーシティ & インクルージョン	外国人の雇用 表示・掲示の多国語化	
		人材育成制度	個人別人材育成シートを用いた 社内外教育計画	
	事業活動 の基本	コンプライアンスの 徹底	企業倫理の徹底と法令遵守	多岐にわたるテーマの内部監査 事例教育

SDGs目標		対象とするターゲット	
7	エネルギーをみんなに そしてクリーンに	7.2	再生可能エネルギー割合大幅拡大
		7.3	エネルギー効率改善率倍増
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	9.4	環境配慮技術プロセス導入拡大
10	人や国の不平等をなくそう	—	—
11	住み続けられるまちづくりを	11.6	都市部環境影響軽減
12	つくる責任つかう責任	12.1	持続可能な消費と生産プログラム (低炭素型ライフスタイル・社会システム確立)実施
		12.4	製品ライフサイクルでの環境配慮・健康環境悪影響を最小限
		12.5	予防・削減・リサイクル・再利用で廃棄物排出大幅削減
		12.6	持続可能性定期報告
13	気候変動に具体的な対策を	13.1	気候変動・自然災害弾力性・適応力強化
17	パートナーシップで目標を達成しよう	—	—
6	安全な水とトイレを世界中に	6.4	水資源利用効率改善
7	エネルギーをみんなに そしてクリーンに	7.2	再生可能エネルギー割合大幅拡大
		7.3	エネルギー効率改善率倍増
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	9.4	資源利用効率向上・クリーン技術・環境配慮技術 プロセス導入拡大
12	つくる責任つかう責任	12.1	持続可能な消費と生産プログラム (低炭素型ライフスタイル・社会システム確立)実施
13	気候変動に具体的な対策を	—	—
14	海の豊かさを守ろう	14.1	あらゆる海洋汚染防止・減少
3	全ての人に健康と福祉を	3.6	交通事故半減
		3.a	たばこ規制
		3.d	健康リスク早期警告・緩和・管理能力強化
8	働きがいも 経済成長も	8.4	経済成長と環境悪化の分断 (資源効率改善)
4	質の高い教育をみんなに	4.4	男女の区別無く 雇用・ディーセントワーク(働き甲斐・人間らしい仕事)
		4.5	ジェンダー格差を無くす
5	ジェンダー平等を実現しよう	5.1	女性差別撤廃
		5.2	女性への暴力排除
		5.3	有害慣行撤廃
		5.4	無報酬育児・介護・家事認識評価
		5.c	ジェンダー平等促進
8	働きがいも 経済成長も	8.2	高レベル経済生産性
		8.5	完全かつ生産的雇用・ ディーセントワーク(人間尊厳を保てる生産的な仕事)・ 同一労働同一賃金達成
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	—	—
10	人や国の不平等をなくそう	10.3	機会均等確保・成果不平等是正
10	人や国の不平等をなくそう	10.3	機会均等確保・成果不平等是正
16	平和と公正をすべての人に	16.5	汚職・贈賄大幅減少
		16.10	基本的自由保障

JFEプラリソース SDGs目標とCSR報告書記載項目対比表

当社の主な具体的実行テーマ	SDGs目標		
適正なバリューチェーン 小売り店網整備	7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	
ISO 9001、ISO 18263 に基づく管理体制	9	産業と技術革新の基盤をつくろう	
	10	人や国の不平等をなくそう	
	11	住み続けられるまちづくりを	
商品開発体制の拡充 研究開発費利益比率2%	12	つくる責任つかう責任	
お客様選択仕様の拡大 エンゲージメント強化	13	気候変動に具体的な対策を	
再生プラスチック製品の開発と商品化	17	パートナーシップで目標を達成しよう	
	再生プラスチック製品適用市場の拡大	6	安全な水とトイレを世界中に
		7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに
	—	9	産業と技術革新の基盤をつくろう
副産物の製品化開発	12	つくる責任つかう責任	
	13	気候変動に具体的な対策を	
設備・作業の安全化への資本投入 (同一テーマの全工場実行) リスク低減ワースト5活動	14	海の豊かさを守ろう	
快適職場の形成 家族参加型レクリエーション	3	全ての人に健康と福祉を	
外国人の雇用 表示・掲示の多国語化	8	働きがいも経済成長も	
	4	質の高い教育をみんなに	
	5	ジェンダー平等を実現しよう	
個人別人材育成シートを用いた 社内外教育計画	8	働きがいも経済成長も	
	9	産業と技術革新の基盤をつくろう	
	10	人や国の不平等をなくそう	
多岐にわたるテーマの内部監査 事例教育	10	人や国の不平等をなくそう	
	16	平和と公正をすべての人に	

対象とするターゲット		2019CSR環境報告書項目	頁
7.2	再生可能エネルギー割合大幅拡大	私たちのグリーンコミュニケーション活動	10
7.3	エネルギー効率改善率倍増	—	
9.4	環境配慮技術プロセス導入拡大	—	
11.6	都市部環境影響軽減	—	
12.1	持続可能な消費と生産プログラム (低炭素型ライフスタイル・社会システム確立)実施	品質マネジメントシステム	3
12.4	製品ライフサイクルでの環境配慮・ 健康環境悪影響を最小限	JISQ9091:2016 自己適合宣言	37
12.5	予防・削減・リサイクル・再利用で廃棄物排出大幅削減	JISQ9091:2016 自己適合宣言	37
12.6	持続可能性定期報告	製品を通じて～製品製造から回収まで～	27
13.1	気候変動・自然災害弾力性・適応力強化	容器包装プラスチックリサイクルのマテリアルフロー	8
	—	環境に係るデータ公開	7
	—	—	
6.4	水資源利用効率改善	容器包装プラスチックリサイクルのマテリアルフロー	8
7.2	再生可能エネルギー割合大幅拡大	私たちのグリーンコミュニケーション活動	10
7.3	エネルギー効率改善率倍増	—	
9.4	資源利用効率向上・クリーン技術・環境配慮技術 プロセス導入拡大	品質マネジメントシステム	3
12.1	持続可能な消費と生産プログラム (低炭素型ライフスタイル・社会システム確立)実施	環境と調和した製品・サービス	26
	—	品質マネジメントシステム	3
14.1	あらゆる海洋汚染防止・減少	JISQ9091:2016 自己適合宣言	37
	—	—	
3.6	交通事故半減	—	
3.a	たばこ規制	—	
3.d	健康リスク早期警告・緩和・管理能力強化	メンタルヘルスケアの推進	19
8.4	経済成長と環境悪化の分断(資源効率改善)	容器包装プラスチックリサイクルによる環境負荷削減	9
4.4	男女の区別無く 雇用・ディーセント・ワーク (働き甲斐・人間らしい仕事)	ハラスメントのない職場のために ワークライフバランスへの取り組み ～多様で柔軟な働き方～	19 20
4.5	ジェンダー格差無くす		
5.1	女性差別撤廃		
5.2	女性への暴力排除		
5.3	有害慣行撤廃		
5.4	無報酬育児・介護・家事認識評価		
5.c	ジェンダー平等促進		
8.2	高レベル経済生産性		
8.5	完全かつ生産的雇用・ ディーセントワーク(人間尊厳を保てる生産的な仕事)・ 同一労働同一賃金達成		
10.3	機会均等確保・成果不平等是正		
10.3	機会均等確保・成果不平等是正	ワークライフバランスへの取り組み	20
16.5	汚職・贈賄大幅減少	—	
16.10	基本的自由保障	ハラスメントのない職場のために	19

JIS Q 9091:2016 適合宣言書

持続可能な循環型社会を作り上げていくため限られた資源を有効に使うことが求められる昨今、容器包装リサイクル法の枠組みにおいても、環境負荷低減を目指した環境配慮設計が進んでいます。事業者における容器包装の環境配慮設計の促進と、消費者における環境に配慮した商品の選択につながることを目的として、JIS Q 9091:2016に基づく「適合宣言」を行い、品質マネジメントシステム（ISO 9001:2015）の追加指針としています。

適合宣言書

番号 : 0002
発行者の名称 : JFEプラリソース株式会社
発行者の住所 : 本社・京浜事業部 神奈川県川崎市川崎区水江町5番地1
福山事業部 広島県福山市箕沖町113番地
宣言の対象 : プラスチック製容器包装から材料リサイクル手法にて再商品化したプラスチック再生材料（再商品化製品）
適合規格 : 上記宣言の対象は、次の文書の要求事項に適合しています。
JIS Q 9091:2016
品質マネジメントシステムープラスチック再生材料ー
事業プロセスパフォーマンスに関する指針
平成28年10月20日制定

宣言 :
JFEプラリソース株式会社は、プラスチック製容器包装から材料リサイクル手法にて再商品化したプラスチック再生材料（再商品化製品）について、以下を宣言します。

- (1) 品質確認
 - 1) 出荷する再商品化製品の品質確認を実施します。
 - 2) 品質管理基準を定め品質管理を実施し、基準に合格したもののみを製品とします。
 - 3) 製品品質の推移を監視します。
- (2) 品質の安定性
 - 1) 製品のサンプルを品質管理基準に基づき保管します。
 - 2) 機器の運転状況を適切に監視します。
 - 3) 機器の点検・保守を適切に行います。

- 4) 落札した各保管施設からのベール内容（異物、汚れ等）を把握し、再商品化したプラスチック再生材料（再商品化製品）の品質安定化を図ります。
- 5) 規格外品の混入を防ぎます。
- (3) 保管管理
 - 1) 原料及び製品を、保管管理基準に基づき適正に保管します。
 - 2) 原料は、飛散や増湿を防ぐ処置を行います。
 - 3) 原料及び製品の在庫、保管状況を管理します。
- (4) トレーサビリティ管理
 - 1) 原料の受入日、市町村、数量を記録します。
 - 2) 製造におけるマテリアルバランスを管理します。
- (5) 禁止物質管理
 - 1) 特定顧客向けに製品販売を行う場合には、二者間で取り交わした納品仕様書等に規定した要求事項を遵守します。
- (6) 安定供給
 - 1) 安定供給に努めます。
- (7) 測定機器の校正頻度
 - 1) 社内測定器は、管理基準を定め、校正を含めて管理します。
- (8) 再商品化製品製造量当たりの二酸化炭素排出量
 - 1) 再商品化における二酸化炭素排出量を管理します。
- (9) 再商品化製品製造量当たり水消費量
 - 1) 再商品化における水資源使用量を管理します。
- (10) コンプライアンス
 - 1) 公益財団法人日本容器包装リサイクル協会の定めた「プラスチック製容器包装再生処理ガイドライン」を遵守します。
 - 2) 法令に基づき必要な許認可を取得し、適用される法令を遵守します。
 - 3) 情報セキュリティ管理体制を構築しています。
- (11) 保険
 - 1) 建物、設備、その他資産に関する火災保険などに加入しております。
 - 2) 従業員の損害賠償責任保険に加入しております。

代表者の署名 : 田村 望

発行日 : 2017年12月1日（改定日：2018年6月12日）

発行場所 : 神奈川県川崎市川崎区水江町5番地1



JFE プラリソース 株式会社

本社・京浜事業部

〒210-0866 神奈川県川崎市川崎区水江町5番地1
TEL 044-299-5193 FAX 044-299-5328

福山事業部

〒721-0956 広島県福山市箕沖町113番地
TEL 084-981-3160 FAX 084-981-3170

<http://www.jfe-plr.co.jp>